

おお  
『大むかしの緑区』  
みどりく

一 海に面した台地  
うみ めん だいち

ろくせんねんまえ なるみ おおだか うみ めん たか だいち  
六千年前の鳴海・大高は海に面した高い台地でした。現在の緑区の平地は年魚市潟あゆちがたという海うみでした。  
その後、年魚市潟あゆちがたは沖積こいされ海水面も低ひくくなって、海うみであつたところも陸地りくちとなりました。それでい  
までは、地続きじつづの土地とちとなっています。

注※  
げんざい みどりく  
現在の緑区の平地……天白川てんぱくがわや扇川おうぎがわの流域

あゆちがた  
年魚市潟……又は阿由知潟あゆちがた、後に鳴海潟なるみがた

沖積……川の水などで運ばれた土砂がしだいに積み重なること

## 二 緑区に残る遺跡

みどりく のこ いせき

みどりく いちばんふる いせき おおだか ひらの いせき  
 緑区で一番古いと言われる遺跡は大高の平野遺跡です。そこからは、今から一万年以上前の人々が、主に、狩猟に用いたと見られる石器が発見されています。

いま いちまんねんまえひとびと  
 今から一万年前から、人々は土器や石器を使い、木の実や草の根などを集めたり、狩りで動物をととり、海で魚や貝をとって食物にする生活を続けました。この時代を縄文時代とよびます。縄文時代の人々の生活のあとは、貝塚となって鳴海方面にたくさん残っています。当時の海岸近くに住んでいた人たちが、食物とした貝のからをたくさんすてたあとなのです。

注※ 鳴海方面……上ノ山・鉾の木・雷貝塚など

### 三 米を作った人々

いま にせんごひゃくねんまえ  
 今から二千五百年前になると、大陸から水田に水を引く灌漑技術を伴った稲作農業が日本  
 につた ひとびと せいかつ おお へんか じだい つか どき なまえ やよい  
 に伝えられ、人々の生活も大きく変化しました。この時代は、使われていた土器の名前から、弥生  
 じだい みどりく なるみしやうがつこうふきん かたひらしやうがつこうみなみ せいすいじ だいち みどり  
 時代とよばれています。緑区では、鳴海小学校付近や、片平小学校南の清水寺の台地や、緑  
 しやうがつこうふきん ていち やよいと き はつけん  
 小学校付近の低地から弥生土器が、たくさん発見されています。  
 じやうもんじだい うみ  
 縄文時代から海がゆつくりとしりぞきはじめ、天白川や扇川沿いの低地では米づくりがひろがり、  
 ちか だいちしやめん へいち あた ※うみ たいがん かきでら  
 近くの台地斜面やふもとの平地には新しい「むら」ができました。海をへだてた対岸にあたる笠寺の  
 だいち ※みはらしだいせき きほ おお まいとししみんさんか はつくつちやうな つづ  
 台地にある見晴台遺跡もこのころにできたもので規模も大きく、毎年市民参加によって発掘調査が続  
 けられています。

注※ 海……………天白川流域

見晴台遺跡……………南区見晴町

## 四 緑区の古墳

※さんせいき なか  
三世紀の中ごろから六世紀にかけて日本各地に古墳とよばれる、土を高く盛った墓が作られました。

ち た はんとう にしがわ かいがん  
知多半島の西側の海岸は、伊勢湾から年魚市場に続く海上交通の重要な地域であったため、  
おわりとうぶ もりやま ふる こふん  
尾張東部には守山とならんで古い古墳があります。東海市の古墳や大高の斎山古墳は足もとの低  
ち み おか うえ きす  
地を見おろす丘の上に築かれています。古墳時代後期に鳴海地区では豪族の小型の円墳が多く作ら  
にいのみいけ にしがわ おおつか あかつか ふた こふん  
れました。新海池の西側の大塚・赤塚の二つの古墳がそれです。

注※ 三世紀の中ごろから六世紀……今から千四百年〜千七百年ぐらい前  
なか ろくせいき いま  
足もとの低地……むかしの鳴海潟  
なるみがた